

愛川ふれあいの村 今月の風景

2022年11月 自然のたより

朝晩の冷え込みが少しずつ厳しさを増し、それに伴って、村内の木々も鮮やかに色付き始めました。黄金色に輝くイチョウ並木をはじめ、イロハモミジやトウカエデ、メタセコイアなど、赤や黄色に彩られた美しい景色を堪能することができます。ギンナンの匂いも、カツラの甘い香りも、この時期のお楽しみです。日の入りも早くなり、少しずつ、冬の足音が近づいています。(袖山)







442 年ぶりの天体ショウ

錦秋のニシキギ

冬鳥のジョウビタキ



餌を探すヤマガラ



イカル群れる



カケスの味覚…



エナガの懸垂



クサギの実



イロハモミジ



ヤツデの花



ヒイラギ



冬越しするウラギンシジミ



クロコノマチョウ



キタテハ



ツバメシジミ

トピックス ★秋のにおい★

みなさんは季節のにおいを感じたことがあるだろうか。夏の夜、暗い空を見上げて息をすると、私は夏のにおいを感じる。昼間には感じられない、静かで涼しい風を感じることが好きだ。冬の朝、晴れている空を見上げて息をすると、私は冬のにおいを感じる。鼻先が痛くなる冷たい空気が好きだ。春のにおいは、私は花粉症で毎年鼻が利かなくなるので感じない…。秋はどうだろうか。私は、晴れた日の午前中に秋のにおいを感じる。高い空を見上げて息をすると、冷たいけれどお日様のぬくもりを感じる空気で、私は好きだ。金木犀のにおいも混ざるとより好きだ。

枕草子では、季節の 1 番良い「とき」が書かれており、夏は「夜」、冬は「つとめて」である。季節のにおいを感じるときは人それぞれだと思うが、私と同じである。秋は「夕暮れ」であるので、私がにおいを感じるときとは異なるが、秋の夕暮れも私は好きだ。夕日に照らされた山を見て深呼吸をすると、自然と微笑んでしまう。秋は「読書の秋」、「運動の秋」、「食欲の秋」など沢山の名前を持つので、秋を感じるときも沢山あるのかもしれない。

ここのところ、秋のにおいを感じる日が多くなった。私は季節のにおいを感じると、前向きな気持ちになる。みなさんにも季節のにおいを感じるときがあれば、深く息を吸い、沢山においを体に取り込んで日々の活力にしていただければと思う。(石川)



生き物 ★竜胆★

村の宿泊棟の名前の由来はご存知ですか?単純ではありますが、各宿泊棟の近辺で見られる動植物の名前を取っているのですが、その中でも「りんどう」は秋に咲くイメージがありますね。村の中も紅葉で彩られてきたので、りんどうの群生地に様子を見に行くと全く咲いていませんでした。あれ?と調べてると村のりんどうは「フデリンドウ」という種類で春に咲くようです。せっかくの機会にもう少し調べてみると、フデリンドウの名前は開花前のつぼみの姿が筆の先端のような形になっている所から取られており、他にも群生地などの条件によってさまざまな種類があるのは面白い特徴です。(鎌形)



←開花前

開花後-



■ ★銀杏★

銀杏のなんとも言えぬ匂いもまた、秋が来たと感じられますね。利用者の方から「銀杏の調理方法」をよく聞かれるので、調べてみました。

銀杏のみで食べる調理について、袋に入れて電子レンジで熱する方法もありますが、よりおいしくできるのはフライパンで炒る方法です。注意すべきは殻にヒビを入れておくこと。中身が破裂したり、食感が悪くなってしまうそうです。10分ほど炒って、中身が綺麗な黄色になったら完成。中身だけ炒ると、表面が焼けて香ばしい味わいになります。

具材として使うのは茹でた 銀杏です。殻から出した銀杏 を3分ほど煮て、薄皮を取り 除けば完成です。

他にも色々なレシピがあるので、みなさんもぜひ秋の味



覚を堪能してみてください。(三好)



この下の黒い線を思い出す。(吉田) では、生理現象なのか思いがけなく涙が出来るのである。寒い朝の散策が出来るのである。まいがけなく涙が出来るのである。まい朝の散策でくることがある。この厳しい生活を乗り越えたる場、寒さに負けて命を落とすことが出来るのである。まい朝の散策でくることがある。そんな時寒さにかである。とかなけなく涙が出来るのである。そんな時寒さにかである。とかなけないである。

い冬が近づくと、寒さの中でき物たちの冬越し

発行者:神奈川県立愛川ふれあいの村 写真・編集:吉田文雄・髙梨淳一・袖山浩一

TEL: 046-281-1611 FAX: 046-281-3601